仙台大学紀要
Vol. 53, No.1: 01-14, 2021

女性警備員の制服をめぐる意識の乖離：「かわいい」と「かっこいい」の差異に着目した考察

田中　智仁 1）

1）仙台大学体育学部

仙台大学紀要
Vol. 53, No.1 01-14, 2021

研究資料

女性警備員の制服をめぐる意識の乖離：「かわいい」と「かっこいい」の差異に着目した考察

田中　智仁 1)

1）仙台大学体育学部

Tomohito Tanaka1) : Difference in consciousness for the uniform of women security guards: Consideration of "Kawaii" and "Kakkoii" : Bulletin of Sendai University, 53 (1) : 01-14, September, 2021.

1) Sendai University Faculty of Sports Science

Abstract: This is the third report of the result of "The study of factors that women security guards cannot make career and continued employment" carried out from 2017 through 2019. The purpose of this report clarifies why women security guards demand "Kakkoii" of uniform. As clarified by the first report, managers and administrators of security guard companies are push forward the uniform renewal that they pursued "Kawaii". But as clarified by the second report, women security guards are negative in "Kawaii". As a result of consideration in this report, "Kawaii" is weak and greenhorn, and becomes target to guard. It is the attribute in contradiction to security guards. The image of security guards are strong and mature persons that are not person said "Kawaii". School uniform is teenage women wear, and arrangement is possible. On the other hand, women security guard's uniform is wide age wear arrangement is impossible, and professionalism for the job. In the recent trend, the uniforms of cabin attendant and railroader does not emphasize femininity. These uniforms which there is not of the gender bias is judged "Kakkoii". There is the social background where the social progress of women by law revision such as the The Equal Employment Opportunity Law. In correspondence with such a social change, it is necessary to grasp the needs of the women security guards precisely, and to push forward uniform renewal. Then, it is thought that women security guards demand it and become the uniform ideating "Kakkoii".

KEYWORD security guard business, gender, professionalism

キーワード 警備業，ジェンダー，プロフェッショナル性

Ⅰ．緒言

本稿は，研究計画に基づく研究費の基礎研究「女性警備員のキャリア形成と就労阻害要因の研究」（2017年度 - 2019年度）の成果の一部である．

警備業務には，男性警備員では担当することができない保安検査や監視業務があり，女性警備員の活躍が求められている．しかし，警備業界はいわゆる「男性社会」であり，女性警備員の割合は概ね5％台で推移してきた．近年は臨時警備員の女性割合が上昇しているが，警備業務の主軸を担う常用警備員の女性割合は低いままとなっている．

そこで本研究では，「女性警備員の配置が不可欠な警備業務が存在しているにもかかわらず，なぜ女性警備員の割合が低率なのか」，「女性警備員が不足することで警備業務の実施にどのような問題が生じるのか」の2点を問題意識とし，警備業者の女性役員および管理職（一部男性を含む）と女性警備員を対象にインタビュー調査（半構造化面接）を実施した．

これまでに，役員および管理職を対象とした調査結果を第1報の「女性警備員の雇用と労務管理の課題」（『仙台大学紀要』Vol.52, No.1,2020, pp.13-26），女性警備員を対象とした調査結果を第2報の「女性警備員の就労とキャリア形成の課題」（『仙台大学紀要』Vol.52, No.2, 2021,pp.7-20）で公表しており，本稿は第3報にあたる．

第1報で述べたように，当初の計画では，第1報と第2報で整理した論点を比較検証し，理論的な考察を展開するのが第3報の位置づけであった．しかし，主要な論点の中で，女性警備員の制服をめぐる意識に著しい乖離があり，紙幅を割いて論考する必要があると考えた．そのため，本稿では女性警備員の制服に特化した考察を展開し，それ以外の論点の考察は第4報へ持ち越すこととする．

第1報では，複数の役員および管理職が「かわいい」を追求した制服改革を進める意向を示していた．他方で，第2報では現場の女性警備員が「かわいい」に抵抗感を抱き，「かっこいい」を追求した機能性の高い制服を求めていることが明らかとなった．

それでは，「かわいい」と「かっこいい」にはどのような違いがあり，なぜ女性警備員は「かっこいい」を求めるのだろうか[注1]．この問いを明らかにするのが本稿の目的であり，「かわいい」および「かっこいい」という言葉で表象されるジェンダーバイアスに注目する．そのため，女性警備員の制服について，被服学の観点から素材の通気性や耐久性等を考察するのではなく，社会学の観点から職業イメージ等に関わる制服の社会的機能を考察する．

本稿の構成は次の通りである．まず，「Ⅱ」で制服の規定と警備業協会（業界団体）の女性部会が主導している制服改革の経緯を説明した上で，第1報と第2報で既述した調査対象者（当事者）の語りをレビューする．次に，「Ⅲ」で「かわいい」と「かっこいい」の概念について，先行研究に基づいてどのようなジェンダーバイアスが表象されているのかを整理する．続いて，「Ⅳ」で学校制服と公共交通機関の制服を比較対象に挙げながら，制服を着用する意義を考察する．最後に，「Ⅴ」で論点を総括し，結語を述べる．

Ⅱ．制服改革の経緯と当事者の意識

1．警備業法における制服の規定

2021年現在の日本における警備員の制服は，男女を問わず上半身に標章付きのジャケット（ブレザーまたはブルゾン）とシャツ，下半身にズボン（スラックスまたはパンツ）を着用するスタイルが一般的である．女性警備員の場合，下半身はズボンに限らず，膝丈のスカートやキュロットを着用するケースも見受けられる．配色についても，紺色等のダークカラーを基調とするものから，黄色等のビビッドカラーを基調とするものまで多様性がある．

警備員の服装については，警備業法第16条で「警備業者及び警備員は，警備業務を行うに当たつては，内閣府令で定める公務員の法令に基づいて定められた制服と，色，型式又は標章により，明確に識別することができる服装を用いなければならない」と規定されている．

さらに，同条2項で「警備業者は，警備業務（内閣府令で定めるものを除く．以下この項及び次条第2項において同じ．）を行おうとする都道府県の区域を管轄する公安委員会に，当該公安委員会の管轄区域内において警備業務を行うに当たつて用いようとする服装の色，型式その他内閣府令で定める事項を記載した届出書を提出しなければならない．この場合において，当該届出書には，内閣府令で定める書類を添付しなければならない」と届出の義務が定められている．

書類の記載事項は，「服装の届出にあつては当該服装に付ける標章の位置及び型式並びに当該服装を用いて行う警備業務の内容」（警備業

法施行規則第29条）である．さらに，「服装（制服でない服装にあつては，標章を付けるものに限る．）の届出に係る届出書にあつては，服装の種類ごとに，当該服装を用いた警備員の正面及び側面の全身の縦の長さ12センチメートル，横の長さ8センチメートルの写真（無背景で色彩を識別することのできるものに限る．）各1枚」と規定されている．

要するに，①色，型式又は標章によって公務員の制服と明確に識別できること，②公安委員会へ写真付きの書類を届出ること，の2点が法定されている．換言すれば，法定の要件を満たす範囲内であれば，警備業者ごとに独自のデザインを採用することが可能である．例えば，芸能人のステージ衣装と近似した華美な制服や，セーラー服等の学校制服を模した制服を着用することもあり得るのだ．

そのため，警備員の制服は各警備業者にとって，他社との差別化を図ると同時に，雇用促進に資するツールになる．しかし，警備業者の多くが男性経営者であり，女性警備員の制服に女性の意見が十分に反映されてきたとは言い難い状態が続いていた．そこで，一部の警備業協会では，女性部会が主導して女性警備員の制服改革に乗り出す動きがみられている．

２．警備業協会の女性部会

2021年5月現在は，東京都，大阪府，福岡県，岐阜県の4都府県の警備業協会に女性部会があり，警備業が女性にとって魅力的な職業になるように活動を活発化させている．大阪府の「ひまわり会」は全国に先駆けて2001年5月に発足し，年間を通じて研修等の活動を行っている．東京都の「すみれ会」は2015年4月，福岡県の「あやめ会」は2016年11月，岐阜県の女性部会は2018年6月に発足した．

2017年7月に開催された「ひまわり会」「すみれ会」「あやめ会」の合同会議では，警備料金の適正化や時短勤務等の環境整備に向けた意見交換に加え，女性警備員を増やすための方策も積極的に議論されている．この議論の中で，女性警備員の愛称案を絞り込むと同時に，制服デザインも非常に重要な要素であるとの意見も出された[注2)]．

女性警備員の愛称については，合同会議からの提案を受け、一般社団法人全国警備業協会が「警備なでしこ」に決定し，警備業のイメージアップ戦略も含めて女性の雇用促進を図る方針を示した．2020年には、「警備なでしこ」をPRするためにポケットティッシュを作成し，各都道府県の警備業協会と連携して催事等で配布している（図1）．

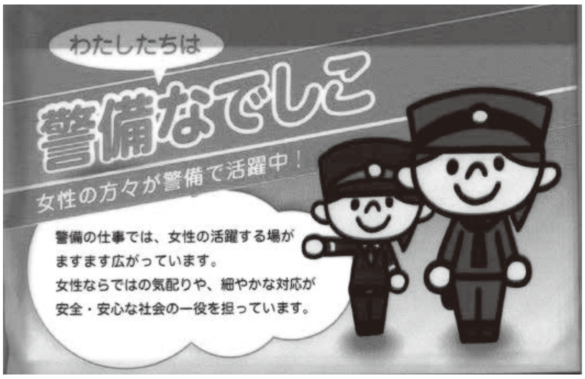

わたしたちは
警備なでしこ
女性の方々が警備で活躍中！
警備の仕事では、女性の活躍する場がますます広がっています。
女性ならではの気配りや、細やかな対応が安全・安心な社会の一役を担っています。

図１ 「警備なでしこ」のポケットティッシュ[注3)]

女性警備員の制服については，東京都警備業協会が2016年10月に実施した教育幹部合宿研修会のグループディスカッションで，「新しい発想で作る制服がポイントになると思う」と意見が出され[注4)]，翌年5月には「すみれ会」と制服業者との意見交換会も行われた[注5)]．この意見交換会では，「もっとかっこいい」または「かわいい制服つくって」と制服業者へ要望しており，「かわいい」と「かっこいい」の両方を追求する意向を示している[注6)]．

岐阜県の女性部会は，2019年に「オシャレな統一ユニホームで女性警備員を増やそう」と銘打ち，女性警備員の制服デザイン・コンテストを実施した．地元の高校生を中心に145点のデザインが集まり，高校2年生の女子生徒の作品が最優秀賞を受賞している（図2）．

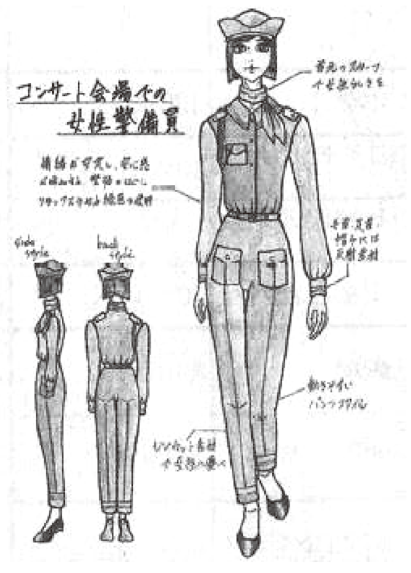

コンサート会場での
女性警備員
side style
back style
働きやすい
パンツスタイル

図２　制服デザインの最優秀賞[注7]

このように，女性部会は制服業者や学生も取り込みながら，積極的に制服改革を主導している．すなわち，警備業界の内部における閉鎖的な議論に終始するのではなく，対外的な事業として制服改革を推進しようとする意志が明確化されているのだ．

３．「かわいい」または「かっこいい」への偏重

警備業協会の制服改革と並行し，各警備業者も会社単位で，役員および管理職が女性警備員の雇用促進策として制服改革を進めている．第1報で述べた通り，その中には「仕事でお洒落をすることに抵抗を感じる女性がいることも事実」とした上で，「制服には安心感を与えるような凛々しさ」が求められると述べた役員もいた．

一方で，複数の役員および管理職が述べたのは，女性のイメージに適う「かわいい制服」を追求する姿勢である．その意図は，①制服自体に備わっている男性イメージを払拭すること，②男性とは異なる制服を着用することで注目を集め，女性警備員をPRすることにある．具体的に，「紺を基調としながら襟がピンク」や「ヘルメットの色も女性はピンクにする」といった配色案も述べられた．既述の通り、「すみれ会」と制服業者の意見交換会では，「かわいい」と「かっこいい」の両方を追求する意向が示されたが，会社単位では「かわいい」に偏重した制服改革が進んでいると考えられる．

しかし，第2報で述べた通り，女性警備員は概して「かわいい」を追求した制服改革に否定的であった．女性警備員が期待するのは「かっこいい」を追求した制服改革であり，「ピシッと制服を着こなしているイメージ」への憧れがあると述べていた．私服ではスカートを履くことが多い女性警備員でさえも，ズボンの制服を受容していた．

さらに，複数の女性警備員が述べたのは，女性の体型を考慮していない制服への不満である．男性用のズボンを貸与される場合，細身で小柄な女性にはSサイズでも大きすぎる．また，女性用の制服でもスリーサイズに個人差があるため，「腰回りがダボダボ」でありながら「胸元がきつい」といった状態になる．その上で，無線機や警戒棒等の装備品を携帯すると不格好になるのだ．この不格好を一言で表現すると，「ダサい」のである．

会社によって反応は異なるが，「男性の制服のデザインで，女性の体型に合わせた制服がいい」と述べた警備員もいることから，デザイン自体を見直すのではなく，身体的性差を考慮すれば満足度は向上する可能性がある．一方で，デザインが若年層のトレンドに合わないため，「デザインも年代によってニーズに合わせたらいい」と多様性を求める意見もあった．

また，デザインについても「明らかにダサい制服は来たくない」ことを前提としながら，「かっこいいけど機能性が低い制服になっている問題もありますし，男性が思うかっこいいと女性が思うかっこいいが違う」と述べた調査対象者がいた．この場合，「かっこいい」と機能性が両立されていないことも問題であるが，同時に，「かっこいい」の感性に男女差があることも問題視されている．

ところが，「女性が思うかっこいい」を追求したとしても，それで女性警備員の制服に対する満足度が向上するとは限らない．なぜなら，警備員には男性性が求められるとの意識が存在するからである．その一端は，「警備員はなよなよしてるようでは通用しない．（中略）私は男性よりも肝座ってると自覚してますから」

や「隊長にも言われましたけど，警備業界で長くやってる女性は中身が男性だと．男勝りというより，男じゃないとできない仕事です」という語りに表象されている．すなわち，警備員は「男性が思うかっこいい」を体現する職業であり，女性性を求めること自体が疑問視されるということだ．

このように，女性警備員のニーズは多様であるが，①「かわいい」ではなく「かっこいい」を追求すること，②体型の身体的性差または個人差を考慮しない制服や，トレンドに合わないデザインの制服は「ダサい」と思われること，③「かっこいい」の感性に男女差があると思われる一方で，女性警備員にも男性性の「かっこいい」が求められると小括できる．

Ⅲ．「かわいい」と「かっこいい」の差異

1．「かわいい」とは何か

「かわいい」（KAWAII）は，21世紀に入って世界的に最も広がった日本語だと言われている（櫻井2009,p.14）．しかし，「かわいい」とは何かを感性の観点で説明するのは困難を伴う．なぜなら，「かわいい」の特長は「一つの答えがなくてもよいこと」（入戸野2019,p.210）であり，何を「かわいい」と感じるかに個人差があることを前提とするからだ．

大野・田中（2021）は，「かわいい」の3要素として「対象の属性」「感情」「認知」を挙げているが，「感情」と「認知」は個人の感性に左右される要素であり，個人差が生じることは不可避であるといえよう．女性警備員の制服という可視化された対象を考察する上では，「対象の属性」に注目するのが妥当だと考えられる．したがって，個人の感性ではなく，観察可能な現象として「かわいい」を捉えることが肝要である．

宮台ら（2007,pp.120-122）は，「かわいい」の傾向を，①人間工学的（「人にやさしい」ことを追求した結果としての丸さ・白さ・軽さ），②ロマンティック（自分や自分を取りまく周囲のすべてを「～のような」という一定の主観的色彩によって統一的に彩る），③キュート（個々のモノ・こと・人に関する，ある種の「子ども的」な属性―愛らしさ・無邪気さ・明るさ・活発さ・無垢・文脈からの自由など―を志向する）という3つに区別している．その上で，1970年代半ば以降の「かわいいカルチャー」の爆発に関わるのは，②の「ロマンティック」と，③の「キュート」であると述べる．

ただし，四方田（2006,p.16）はアメリカでは女性を不用意にcuteと呼ぶことは，政治的公正さを無視した差別擁護の運用に当たると指摘された経験を踏まえ，「cuteには，それに固有の支配の力学があり，それはすぐれて政治的なものとなりうる」と述べる．そのため，日本の先行研究では「かわいい」と「キュート」（cute）を区別するのが主流であり，諸外国の研究者が両概念を混同していることに対する反論もある．

例えば，北村（2017,p.124）は，Kinsella（1995）やMiller（2005）が「カワイイは少女たちの抵抗だ」注8) と主張したことに対し，「キディランドで買い物していたとき，分厚いプリ帳を持ち歩いていたとき，私は社会が押しつけてくる女らしさに抵抗していたんだ，と，ほんとうに感じるのでしょうか」と疑問を呈している．四方田（2006,p.14）も同様に，日本の街中にあふれるグッズや服装には，対抗文化の持つ政治性を感じさせないことから，「徹底した脱政治性において独自のものといえるだろう」と述べる．

しかし，日本でも「かわいい」を未成熟で劣等視している存在に対して使用される言葉と捉える研究がある．例えば，山根（1986,p.214）は「弱者にいとおしさを認め，それを受容するのが，「かわいい」である．「かわいい」ものは安全なのである．「かわいい」ものは，自分よりも弱い．楽々と自分にとりこめる見こみがある」と述べる．

続けて山根は，「これを反転させると，力の強いもの，あくの強いもの，自分より上のものは受け入れないという構造が見えてくる．受け入れないというより，避けたい，歯が立たない，相手にするのが面倒くさい，怖がる，と言ったほうがよい」と指摘する．すなわち，「かわいい」は弱者を表象する言葉であり，対極に存在する強者を忌避する消極的な姿勢につながるの

だ．そのため，増淵（1994）は「かわいい」を，決別すべき文化とみなしている．

このような「かわいい」の捉え方は，2000年代の研究でも踏襲されている．例えば，四方田（2006,p.71）は，「どちらかといえば女性的で，子供っぽく，隙だらけで，たとえ頭の回転がよくなくても，従順で無垢な存在であるということ」だという．その上で，「「かわいい」は人をして触れたい，庇護してあげたいという欲求を引き起こす．それは言葉を換えていうならば，支配したいという欲求と同義であり，対象を自分よりも下の，劣等な存在と見なすことにも通じている」（四方田2006,p76）と述べる．

さらに古賀（2009,p.203,210）は，「かわいい」は優れたものに向けて見上げる視線（リスペクト）ではなく，強いものが弱い存在に対して保護してあげるというような眼差しだと指摘する．つまり，「飼いならすことができる」（工藤2015,p.38）ものが「かわいい」のだ．

それに対して，山根（1986）と同様に，工藤（2015,p.51）も「かわいくないもの」は明確で，「「おとこおとな」の要素が強いものはかわいくない．あえて単純化した言葉でいうと，伝統，権威，力強さ，押しつけがましさなどはかわいくない」と述べる．この「押しつけがましさ」は「かわいい」を考える上で重要であり，ピンクという色彩も例外ではない．

堀越（2016）は，日本人女性は「女＝ピンク」の図式を受け入れているように見えるが，欧米人女性のピンクに対する忌避感情は大きいと指摘する．ただし，欧米ほどではないとしても，日本でも「幼さや性のイメージを喚起する色である以上，ピンクを押し付けられることに反発する女性も少なくない」（堀越2016,p.62）という実状があり，その一端として2013年にSNSで巻き起こった「ダサピンク現象」注9) を挙げている（堀越2016,pp.181-190）．

このように，「かわいい」の象徴的色彩と思われているピンクも含め，「かわいい」は「押しつけられたとたんに，かわいくなくなってしまう」（入戸野2019,p.216）のである．

一方で，押しつけられるのではなく，自主的に「かわいい」を選択することにより，「かわいい」は年齢や性別を問わない概念として受容される．仲川（2010,p.192）は，自身の祖母が外出時に使うパックを「これが“カワイイ”のよ」とアピールする例を紹介しながら，「女の子でいたい」という気持ちは，いつまでも年齢に関係なくもっているものだと述べる．また，吉光・西原（2017,p.35）は，「少女／女子たちのものだった〈カワイイ〉に，「万人受け」という新たな存在意義が加わった」と述べ，従来の〈カワイイ〉から万人受けする〈カワイイ〉まで包括的に捉えられるものを「ポスト〈カワイイ〉」と位置づけている．

そうであるならば，女性警備員の「かわいい」を追求した制服も，警備業協会や警備業者から一方的に押しつけられるのではなく，選択可能なアイテムとして取り入れる限りにおいて，女性警備員に受容される余地を残すといえよう．

２．「かっこいい」とは何か

平野（2019,p.3）によれば，「カッコいい」が一般的な言葉として普及したのは1960年代であり，現代語辞典に登場したのは1990年代であった．また，1960年代に「カッコいい」という言葉がブームになったのを受けて，1970年代前半から関東で使用され始め，全国に広まった言葉が「ダサい」である（平野2019,p.145）．本研究の調査対象となった女性警備員も，「かっこいい」と「ダサい」を対照的に発言していたことから，これらは対極の関係にある概念を表象する言葉として普及していると言える．

重要なことは，「カッコいい」は時間にも左右され，去年は「カッコよかった」はずのものが，今年は「カッコ悪い」とされてしまうような相対的な価値観だという点である（平野2019,p.42）．すなわち，普遍性のある「かっこいい」は存在しないということだ．

春木（2017,p,26）は，「「かっこいい」という判断が，事物の適合性をつくるのみならず，ある新しい適合の規範をつくるという事態が生じるだろう．そのとき新しい規範は，より旧い規範とのずれを含みうる」と指摘する．その上で，「かっこいい」を「たえず自身のうちにずれを孕みながら適合を求め続ける運動をともなう感

性」（春木2017p,27）と定義する．

この春木の定義を踏まえ，川添（2020,p.19）は「既存の美の体系に対する新しい美の体系の問いかけおよびその運動」として「かっこいい」を再定義しているが，「既存の美の体系」を「去年はカッコよかった」に置き換えれば，平野の「相対的な価値観」と整合する．

とはいえ，「価値観」や「感性」をめぐる抽象性の高い議論だけでは，女性警備員が制服に「かっこいい」を求める社会的背景を理解しづらくなる．そこで注目したいのは，「男の美学」とされてきた「カッコいい」の価値観が，男女を問わずに共有されるようになったのが1990年代だったという平野（2019,p.372）の指摘である．

平野は，1990年代以降に女性に対して「カッコいい」が用いられるようになった背景に，男女雇用機会均等法（以下「均等法」と略記）があると考察している．1986年の均等法施行により，職場における男女差別が禁止され，1997年の改正で女性が管理職に就くようになると，「「かわいい」などと言われるOLとは違った，「カッコいい」理想像が必要とされるようになる」（平野2019,p.380）からである．

もちろん，OLも劣位に甘んじていたわけではなく，様々な「レジスタンス」（小笠原1998）を行っていた．しかし，男性を支える役割を前提とするOLの立場では，女性が実力を発揮して主導権を握ることは困難であった．だからこそ，均等法改正までは「かわいいOL」にとどまっていたのである．換言すれば，「かわいいOL」は男性社会で押しつけられた女性像であり，「かっこいい女性」になるためには上からの押しつけを排して実力を発揮する必要があったのだ．そのため，「「カッコいい」は，画一的な上からの押しつけではあり得ない」（平野2019,p.97）ということに加え，「「カッコいい」は，実力主義である」（平野2019,p.259）と言える．それは同時に，プロフェッショナル性を求められる立場の獲得を意味する．

例えば，満屋（2009,p.85）は科学者について，「手に負えない生命科学の謎の解明に国民の大切な税金の一部を預かって挑む、刺激的でエキサイティングなプロフェッショナルと言い切れる。（中略）パリのファッションやハリウッドよりもはるかに「カッコいい」のだ」と述べ，「カッコいい」の要素をプロフェッショナル性に見出している．

このように，プロフェッショナル性を求められる職分では，「かわいい」ではなく「かっこいい」が理想像となる．警備員としての職分にプロフェッショナル性を見出している女性警備員は，必然的に「かっこいい」姿を勤務中の自身に投影することになる．そのため，警備員の象徴であり，「かっこいい」姿を具現化する制服に，相反する「かわいい」要素を持ち込まれることを忌避するのではないかと考えられるのだ．

Ⅳ．制服の社会的機能と近年のデザイン

1．制服の社会的機能

従来の諸研究で指摘されてきた制服の機能のうち，西川（1999,p.97）は「心理—社会的機能」を図3の通りにまとめている．まず，制服の心理—社会的特性として「統一性」と「識別性」があり，心理—社会的機能は1次的機能（心理—社会的特性から直接的に導かれる機能）と2次的機能（1次的機能から派生して生じる制服のはたらき）に分けられるという．

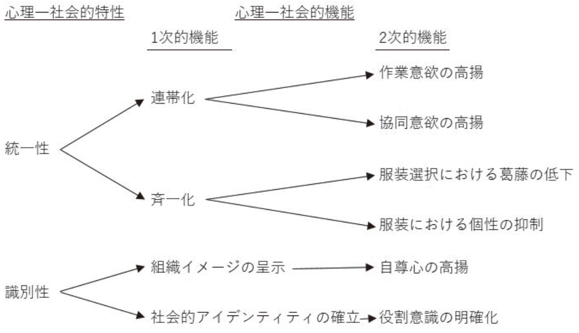


図3　制服の心理—社会的機能（西川 1999,p.97）

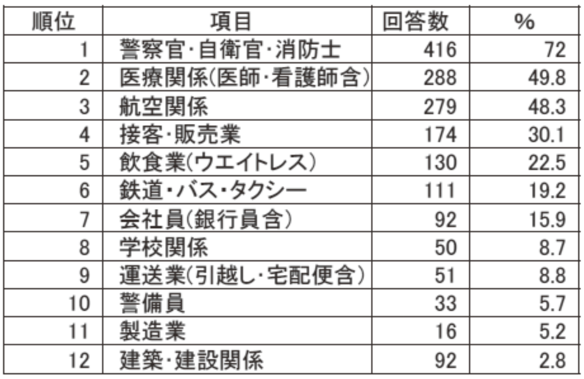
このように，心理的機能を含めると複雑な図式になるが，制服の社会的機能を焦点化した研究もある．例えば，小林（2003,pp.34-35）は，①象徴的機能（集団のシンボル，その集団のメンバーであることを表す），②制服に付随する役割を遂行するはたらき，③個性をコントロー

ルするはたらき，の3点に集約している．さらに，職場における制服は「職業意識や集団意識を高める効果を有するとともに，企業イメージの浸透と向上の手段としても用いられる」（小林2018,p.62）と述べ，「①象徴的機能」の意義を強調している．

また，山岸（2004,p.356）も「制服の背後には，ある組織・機構・制度などがあるのであり，地位と役割，ポジションが制服に結晶化されている」がゆえに，「警察官や看護婦[注10)] や駅員としてその職務を果たすためには，私たちは，特定の制服を着用しなければならない」と述べている．山岸の指摘も，小林が集約した3点を網羅しているといえよう．

公益財団法人日本ユニフォームセンターが2014年に男女600人（男女とも300人ずつ）を対象に実施した調査では，「制服による想起」と「仕事で着用したい制服」に差異があることが明らかにされている．表1の通り，最も想起されやすいのは公安職の「警察官・自衛官・消防士」であり，「警備員」は10位で回答数33（5.7％）であった．

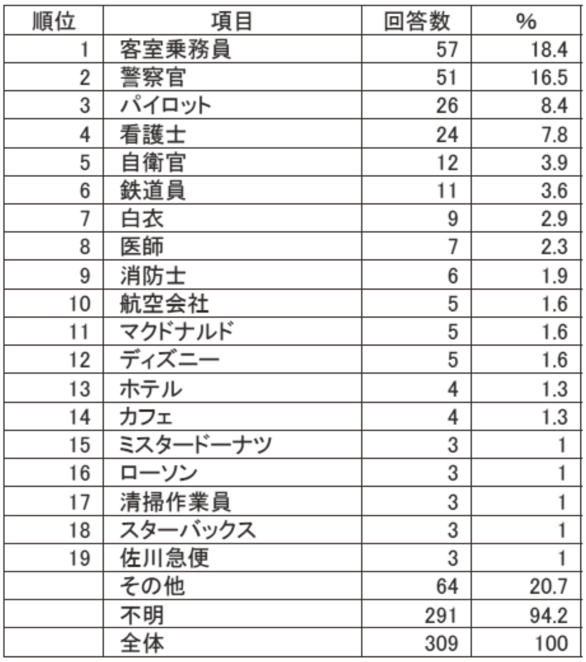
表１「制服による想起」（戸川 2020,p.35）



順位	項目	回答数	%
1	警察官･自衛官･消防士	416	72
2	医療関係(医師･看護師含)	288	49.8
3	航空関係	279	48.3
4	接客･販売業	174	30.1
5	飲食業(ウエイトレス)	130	22.5
6	鉄道･バス･タクシー	111	19.2
7	会社員(銀行員含)	92	15.9
8	学校関係	50	8.7
9	運送業(引越し･宅配便含)	51	8.8
10	警備員	33	5.7
11	製造業	16	5.2
12	建築･建設関係	92	2.8

しかし，表2の「仕事で着用したい制服」になると「客室乗務員」が1位になり，公安職は2位以下へ後退し，「警備員」は順位不明となっている．また，着用したいと回答した理由は，全職種に共通して「憧れの職業だから」と「格好いい」が最多を占めており，「客室乗務員」についても同様であった．

表２「仕事で着用したい制服」（戸川 2020,p.38）



順位	項目	回答数	%
1	客室乗務員	57	18.4
2	警察官	51	16.5
3	パイロット	26	8.4
4	看護士	24	7.8
5	自衛官	12	3.9
6	鉄道員	11	3.6
7	白衣	9	2.9
8	医師	7	2.3
9	消防士	6	1.9
10	航空会社	5	1.6
11	マクドナルド	5	1.6
12	ディズニー	5	1.6
13	ホテル	4	1.3
14	カフェ	4	1.3
15	ミスタードーナツ	3	1
16	ローソン	3	1
17	清掃作業員	3	1
18	スターバックス	3	1
19	佐川急便	3	1
	その他	64	20.7
	不明	291	94.2
	全体	309	100

この結果について尾川（2020,p.40）は，顕著な制服の効果は「識別性」であり，特に安全・安心感を必要とする職種においては「信頼性」の観点からも一般消費者と識別できることが重要だと指摘する．その上で，「統一感」の印象を持たれることで「協調性」（チームワーク）や「プロフェッショナル性」（公私のけじめ）を明確化する効果，さらに制服の大きな特性および目的である「象徴性」の効果が見出されたと考察している．

尾川の考察から，西川（1999）や小林（2003）らが整理してきた制服の機能の要点が，日本ユニフォームセンターの調査でも確認できたことになる．さらに，満屋（2009）が述べていたプロフェッショナル性を表象する効果も制服に見出すことができる．

一方で，警備員が憧れの職業ではなく，制服についても「かっこいい」や「着てみたい」と思われていないことを例証する結果でもある．また，特に安全・安心感を必要とする職種の制服では「かわいい」という要素が不相応であることも示唆されているといえよう．

２．制服の比較

１）学校制服

日本で初めて洋装学生服が導入されたのは，1919年だと言われている（内田2019,p.5）．学校制服は「その人がその学校の生徒であることを内外に示すもの」（内田2019,p.4）であり，「「生徒」を表す衣服に所属する「学校」を示す徽章が付された服装」（難波2012,p.5）と定義されている．この定義に即して考えれば，警備員の制服と学校制服には共通性がある．既述の通り，警備員の制服も公務員や一般消費者等と識別できるように標章を付け，特定の警備業者に所属する警備員であることを内外に示すものだからだ．

ただし，難波（2012,p.3）が述べるように，学校制服は軍服のような支給されるお仕着せではなく，生徒の家庭が費用を負担する自費支弁で成り立つがゆえに，生徒や保護者の要望や解釈が反映される余地がある．また，学校制服は生徒が同じデザイン・色・素材のものを着ることを基本としながらも，スカート丈を上下させたり，リボンやネクタイの結び方を工夫したり，着こなし方の違いで自分なりのおしゃれを楽しみ，個性を主張するものでもある（内田2019,p.4）．伝統校のセーラー服であっても，時代によってネクタイの結び方やスカートの長さは異なり，アレンジの変遷が確認できる（井上2020）．これらの点は，警備員の制服には該当しない．警備員の制服は，警備業者から貸与され，公安委員会に届出ているため，警備員が独自にアレンジを加えることができないからである注11)．

このように，女性警備員の制服と学校制服には，共通性と差異性の両側面があり，比較対象に適していないという見方もあるだろう．しかし，学校制服は伝統性を重んじて開校以来ほとんどデザインを新調していない学校もあれば，生徒募集における効用を狙ってデザインを新調した学校もある．後者の場合は，受験生に「かわいい」「着てみたい」と思われる制服を追求した事例も多く，この観点において女性警備員の制服改革と通底する側面もある．そのため，学校制服の改革時期と近年のトレンドを概観することは有意義であろう．

小林（2020）によれば，学校制服は長らく，生徒の個性や自由を抑圧し，管理するためのツールとみなされてきた．ところが，一部の女子校が1980年代に制服改革（「制服モデルチェンジ」）を進め，志願者増に成功すると，1990年代には全国的に制服を新調する学校が相次いだ．受験生に「かわいい」「着てみたい」と思われる魅力的な制服をアピールポイントにして，学校のブランド化を図ったのである．当然ながら受験生は10代女性であり，社会的に未成熟とみなされる「子ども」の年齢層である．そのため，庇護の対象となる「かわいい」との親和性が高く，「かわいい制服」は違和感なく受容されたと考えられる．

しかし、すべての学校がブランド化に成功したわけではない．小林（2020,p.59）は「制服がかわいい→志願者増→高い学力の生徒増→難関大学進学実績向上」という図式は関東の女子校でみられたが，全国的にみられたわけではないという．すなわち，「かわいい」を追求した制服による生徒募集の有効性は限られていたのだ．さらに，朝倉（2009,p.65）によれば，バブル景気の頃の美的感覚が不景気によって変化し，コストをかけずに洗練されたデザインを求めるようになった．その結果，2000年以降は「生徒自身から見て成長や気品を感じられる大人的なデザインの人気が高まっている」という状況が続いている注12)．

このような状況を鑑みると，女性警備員の募集においても，「かわいい」を追求した制服の効果は限られる可能性がある．一部の警備業者は制服改革によるブランド化に成功するかもしれないが，警備員の制服は着こなしのアレンジができず，警備員の個性を際立たせるものではないため，「かわいい」を追求した制服が画一的な押しつけになることは否めない．また，学校制服は10代女性が着用するのに対し，女性警備員の制服は着用する者の年齢層が幅広い．これらの点を考慮しなければ，制服改革による効果は得られないだろう．

2）公共交通機関の制服

既出の表2の中で，公共交通機関は1位の「客室乗務員」，3位の「パイロット」，6位の「鉄道員」，10位の「航空会社」である．特に，航空機の客室乗務員はかつて「スチュワーデス」と呼ばれ，花形の職業として羨望されてきた背景がある．また，鉄道員も近年は女性の進出が目立つようになり，全国的に有名な「アイドル車掌」注13）もいる．そのため，本稿では女性警備員の制服と比較する対象として，客室乗務員と鉄道員の制服に注目する．

まず，客室乗務員の制服から確認しよう．山口（2019,pp.48-49）によれば，日本航空の場合，戦前の「エアガール」と呼ばれた時代は，シルバーグレーを基調とするツーピースのロングスカートの制服であった．それが，戦後はアメリカ空軍の制服生地を使用し，「長いスカートに胸章の付いたジャケットが特徴的」な軍服調の制服に新調された．

その後，1967年に世界一周線の就航を記念して一新された制服は，森英恵がデザインした「ベレー帽と膝が少しのぞくほどのスカート丈が印象的」なオートクチュール調であった（山口2019,p.89）．さらに，1970年には全日空が制服を「ひざ上十センチのミニスタイルのワンピース」に新調すると，その5日後に日本航空も森英恵デザインのワンピースに新調すると発表し，スカート丈が一挙に15～20cmあがったミニになると予告した（山口2019,p.96）．

このように，女性性を前面に出すようなデザインの制服が一時期主流になるが，1977年に森英恵がデザインした新しいロングスカートとジャケットの制服になると，「十人のうち九人までは不評」という事態に陥る．客室乗務員から，「通気性がないうえ汗を吸わない」等の機能性に関する苦言が呈されたためである．これに対し森英恵は，客室乗務員と意見を交わしながら1年以上かけてデザインした制服であり，不満が出るとは心外であると反論しているが，見栄えよりも機能性を重視する現場のニーズを汲み取り切れなかったことで，組織内部から不満が噴出したと考えられる（山口2019,pp.141-142）．

また，組織外部から批判されたのは，2014年にスカイマークが発表した膝上15cmのミニスカートのワンピース制服である．これは1970年の全日空と日本航空の制服に近いデザインだが，スカイマークの制服に対しては「セクハラ」「安全度外視」といった批判が相次ぎ，客離が加速する結果となった（尾川2020,p.31）．いわゆる「時代の変化」による反応の違いと考えられるが，この違いは平野（2019）が指摘した「相対的な価値観」と整合する．

一方で，「無駄のない洗練された印象」と好評なのは，スターフライヤーの制服である．2006年の就航当時に，コーポレートカラーの黒を基調としたパンツスーツ（ズボンとジャケット）で統一したことで，スカートが主流であった航空業界でイメージの差別化に成功している（尾川2020,p.31）．スターフライヤーは2016年にスカートとワンピースも導入したが，黒の膝下丈であり，女性性を強調しないデザインは継承されている．

日本航空が2020年に導入した制服も，濃紺を基調としたデザインで，初めてパンツスタイル（ズボン）を採用した．なお，ピーチアビエーションはピンクのジャケットを着用しているが，コーポレートカラーに合わせた配色であり，日本の航空業界では例外的なデザインである．このように，近年は肌の露出と華美な配色を控え，ズボンも積極的に導入するのが，客室乗務員の制服のトレンドであるといえよう．

次に，鉄道員の制服を確認しよう．日本ユニフォームセンターの谷山洪栄は，2020年時点の「最近の傾向」を次のように説明している．まず，オリジナリティやデザイン性が高い制服ではなく，シンプルで飽きない，クラシックで規律感・信頼感の高いデザインが増えている一方，シンボルマークやブランドカラー等を反映させるデザインを採用するケースも増えている．配色については，「誰にでも似合う」「長期間着用しても古くならない」「汚れが目立たない」等の観点から，アウター

は紺色等のダークカラー，インナーは白等のベーシックカラーが多いという（「旅と鉄道」編集部2020,pp.4-5）.

「旅と鉄道」編集部編（2020）に掲載されている制服の大半は，男女ともに乗務員（運転士および車掌）はパンツスーツ（ズボンとジャケット）で統一されている．会社によって細部のデザインに差異はあるが，谷山が述べる通りシンプルかつクラシックな印象を与える制服が主流である．駅係員やリゾート列車の接客係員の一部はスカートを着用するが，いずれも膝丈または膝下丈の長めのスカートであり，ミニスカートを着用する例はない.

なお，鉄道員の制服は基本的にオーダーメイドであり，個人のスリーサイズに合うように製作されている．さらに，神戸電鉄では女性社員が増えていることを考慮し，マタニティー仕様も取り入れている（「旅と鉄道」編集部編2020p.122）．このように，女性性を過度に強調することなく，体型を考慮した制服となっている．ただし，鉄道員については制服のイメージのみならず，職業イメージによる「憧れ」も大きく作用している.

鉄道員の職業イメージとして，「かっこいい」を挙げる女性鉄道員が多い．例えば，矢野（2010）では，「運転士になれたら，かっこいい．そう思いました」(p.42)，「ちっちゃな女の子が鉄道で働いている女性を見て，かっこいいな，私もなりたいな，そう憧れてくれるようになったらいいなと思います」(p.103)，「車掌さんが男性じゃなく女性で，びっくりしました．かっこいいなって思いました」(p.138) といったコメントが紹介されている.

女性鉄道員が飛躍的に増加した要因として，2018年に刊行された『それゆけ!女性鉄道員2』（イカロス出版）のコラム（pp.46-47）では，1997年の労働基準法改正と1999年の男女雇用機会均等法が挙げられている．1947年制定の労働基準法では，女性の深夜労働が制限されていた．鉄道員は深夜労働や宿泊を伴う不規則な勤務形態であるがゆえに，女性が活躍できる場は限られていたのだ．そのため，法改正によって女性の深夜労働や宿泊が可能になったことが，女性鉄道員の急増に繋がったと考えられている.

このように，客室乗務員と女性鉄道員については，制服と職業イメージの両面で「かっこいい」と思われ，「憧れ」を抱かれる傾向があり，特に近年は「かわいい」や女性性を強調する傾向は見られていない．さらに，法改正によって女性の深夜労働等の制約が解消されたことで，飛躍的に女性の進出が進んでいると小括することができる.

Ⅴ　考察および結語

以上の論点を整理すると，女性警備員の制服をめぐる意識に著しい乖離が生じている要因と，今後の制服改革の方向性を次のように考察することができる.

まず，役員および管理職が主導する「かわいい」を追求した制服改革は，「かわいい」に内包されている未成熟性を警備員へ画一的に押しつける動向として，女性警備員に認識されたと考えられる．学校制服であれば，未成熟な「子ども」とみなされる10代女性が着用するため，「かわいい」との親和性が高い．さらに，生徒による着こなしのアレンジも可能であり，貸与ではなく自費支弁であるため，生徒が自主的に「かわいい」を追求できる.

しかし，警備員の制服は幅広い年齢層の成熟した女性が着用し，職分のプロフェッショナル性を呈示するツールであるため，「かわいい」との親和性が低い．さらに，制服の要件が法定化され，公安委員会に届出ていることから，警備員が着こなしをアレンジすることはできない．そのため，「かわいい」を追求した制服は，「ポスト〈カワイイ〉」の範疇には含まれず，「ダサピンク現象」に通底するジェンダーバイアスを表象する制服となってしまう.

そもそも，警備員は警備対象者や警備対象物件を守ることが職分であり，未成熟で弱い子どものように庇護される対象ではない．むしろ，警備員はこれらの対象を庇護する側であり，「かわいい」とは対極の「おとこおとな」の要素が

強いもの，すなわち男性性を求められる存在として警備業務に従事している．だからこそ，女性警備員は「かわいい」を忌避する．

一方で，「かっこいい」を追求した制服は警備員の職分を具現化しているため，女性警備員から「男性の制服のデザイン」が希求される．ただし，必須条件は体型の身体的性差と個人差を考慮することだ．女性の体型に合わせるだけではなく，個人のスリーサイズにも対応した制服でなければ，洗練されたデザインであっても不格好で「ダサい」のである．

もちろん，「ダサい」制服であっても，「統一性」と「識別性」は確保できる．しかし，「連帯化」による「作業意欲の高揚」や，「自己イメージの呈示」による「自尊心の高揚」は大きく損なわれる．そのため，「ダサい」制服は社会的機能の観点から改善を要する．また，客室乗務員や鉄道員のように，女性警備員が「格好いい」と思われ「憧れ」を抱かれる職業となり，「仕事で着用したい制服」の上位に入るためには，「かっこいい」が相対的な価値観であることに留意して，制服改革を進める必要がある．

2021年現在，学校制服と公共交通機関の制服に共通しているのは，女性性を強調しないデザインである．その社会的背景には，均等法等の法改正によって女性の社会進出が促され，「かわいいOL」ではなく「かっこいいプロフェッショナル」としての女性像が浸透してきたこともある．「かっこいい」が相対的な価値観であるがゆえに，こうした社会の変化を的確に捉え，女性警備員の職業イメージに適う制服改革が求められる．

そのためには，東京都の女性部会が制服業者を交えて議論したことや，岐阜県の女性部会が対外的に制服デザイン・コンテストを開催したことは有意義だと考えられる．制服業者やコンテストに応募した高校生らが，社会の変化に即した改革案を警備業界へ持ち込むからだ．業界外部の視点を改革に反映させることで，女性警備員の職業イメージを的確に捉えることができる．ただし，警備業協会や各警備業者の役員および管理職の目利きだけでは，結果的に制服を押しつけることになり，女性警備員のニーズに応えられない可能性がある．

重要なのは，実際に制服を着用する女性警備員のニーズを反映させることである．このプロセスを経て新調される制服は，女性警備員が求める「新しい美の体系の問いかけ」に応えた「かっこいい」ものになると期待できる．

注

注1）本稿では「かわいい」と「かっこいい」を基本の表記とするが，先行研究では「カワイイ」や「可愛い」，「カッコいい」や「格好いい」と表記を変えることで概念を差別化している場合もあるため，引用個所は引用元の表記に従う．例えば，仲川（2010,p.1）は少女文化的1970年代の「可愛い」，1980年代ブリッ子としての「かわいい」，1990年代以降ギャル，ファッショントレンドとしての「カワイイ」と表記を使い分けているが，本稿では少女文化史やギャルのファッショントレンドを考察の主要な論点にしない．また，池田（2017,p. iv）は女性視点からの「かわいい」のみを念頭におき，男性視点の「かわいい」は扱っていないため，「かわいい」と一般的に言うには憚られるとの理由で「カワイイ」と表記しているが，本稿では憚る理由がないため「かわいい」と表記する．なお，本稿は特定のジェンダー史観やフェミニズム運動を称揚または卑下する意図はなく，先行研究についても中立的観点に基づいた引用を心掛けた．

注2）『警備保障タイムズ』2017年7月11日付．

注3）ティッシュ袋はピンクを基調とし，女性警備員の制服イラストは黒地（左）と青地（右）でカラーリングされている．また，「わたしたちは」と「なでしこ」の文字はピンクであり，全体的にピンクが目立つ配色となっている．

注4）東京都警備業協会機関誌『とうけいきょう』2016年11月号,p.10

注5）東京都警備業協会機関誌『とうけいきょう』2017年6月号,pp.25-26．なお，「すみれ会」は2017年4月に東京オリンピック・パラリンピック2020の女性警備員の制服についても「憧れを持たせる必要がある」「有名デザイナーの名前が少しでもあるだけで，単純に「着てみたいわ」と思います」と意見している．これに対し

て，大会組織委員会は制服の統一も検討材料であり，現行法の範囲内で魅力的な制服にしていきたいと答弁している（東京都警備業協会機関誌『とうけいきょう』2017年5月号,p.10）.

[注6] 『警備評論』2017年8月号,p11

[注7] 『警備保障タイムズ』2019年9月21日付.

[注8] Kinsellaは「丸文字を書く，サンリオグッズを集める，といった行為は，彼女らが性的に無垢でいられる少女期に留まり，大人の女に成長することを拒もうとする」，Millerはプリクラを取り上げ「少女たちはただかわいく写真におさまろうとするだけでなく，疑似セックスを写真にとる「エロプリ」や，変顔をしたり下品な落書きをしたりする「キモプリ」も創出している．これもまた，おとなしく清純であれという日本社会の女らしさの掟に背く，彼女らの力強い反抗心の表れなのである」と主張している．

[注9] ブロガーの宇野ゆうこが2013年8月にTwitterでつぶやいた文章に由来し，「ピンク＝ダサイ」の意味ではなく，「女性ってピンクが好きなんでしょ？」「女性ってかわいいのが好きなんでしょ？」等の認識で作られたものの出来が残念な結果になる現象のこと．

[注10] 2001年に「保健婦助産婦看護婦法」が「保健師助産師看護師法」へ改定されたことに伴い，男性を「看護士」，女性を「看護婦」としていた呼称が「看護師」に統一されたが，引用個所は原文ママとする．なお，表2の「看護士」も同じ．

[注11] 第二次世界大戦に動員されたイギリスの女性を論じた杉村（2021,p.11）は，「ガールたちの制服は，既存の「女らしさ」から飛び出し，「男性領域」へと侵入したことを示す．その一方，ズボンをスカートに置き換える，華やかな差し色を入れる，など，女らしいアレンジを加え，彼女たちに許された領域を再確認させるものでもある」と述べる．このように，制服のアレンジは軍服においても確認されている．ただし，女性の主な担当は補助部隊であり，「女性はたくましく，自立した労働者であると同時に，優しい家庭人でもある」（杉村2021,p.155）という状態であった．そのため，ジェンダーバイアスは顕在しており，「戦争の終結が近づくと，制服ガールは徐々に姿を消して行く」（杉村2021,p.203）こととなった．

[注12] 近年は学校制服をはじめとする各種制服において，LGBT（もしくはLGBTQ）に配慮したデザインを導入する例が相次いでいるが、先行研究および筆者独自の調査ではLGBTに配慮したデザイン案については言及されていないため，本稿では割愛する．

[注13] 2021年現在で有名な一例として，銚子電鉄の袖山里穂車掌（運転士業務と駅業務も担当）が挙げられる．

文献

朝倉まつり（2009）この制服が人をつくる．真珠書院

春木有亮（2017）「恰好」から「かっこいい」へ：適合性 suitability の感性化．人間科学研究 13: 1-30

平野啓一郎（2019）「カッコいい」とは何か．講談社

堀越英美（2016）女の子は本当にピンクが好きなのか．P ヴァイン

池田太臣（2017）はしがき．吉光正絵・池田太臣・西原麻里編著，ポスト〈カワイイ〉の文化社会学：女子たちの「新たな楽しみ」を探る．ミネルヴァ書房：ⅰ-ⅶ頁

井上晃（2020）セーラー服の社会史：大阪府立清水谷高等女学校を中心に．青弓社

川添善行（2020）「かっこいい建築」を定量的に評価する試み．生産研究 72(5): 355-357 頁

Kinsella,S.（1995）Cuties in Japan. Moeran,B. and Scov,L. eds. Women, Medeia and consumption in Japan. Routledge: 220-254

北村文（2017）ジェンダーをする．藤田結子ほか編，ファッションで社会学する．有斐閣：111-130 頁

小林茂雄（2003）装いの心理（改訂版）．アイ・ケイコーポレーション．

小林茂雄（2018）社会的役割と装い．小林茂雄・藤田雅夫編著，装いの心理と行動：被服心理学へのいざない（2 版）．アイ・ケイコーポレーション：58-64 頁

小林哲夫（2020）学校制服とは何か：その歴史と思想．朝日新聞社

古賀令子（2009）「かわいい」の帝国：モードとメディアと女の子たち．青土社

工藤保則（2015）カワイイ社会・学：成熟の先をデザインする．関西学院大学出版会

増淵宗一（1994）かわいい症候群．日本放送出版協会

Miller,L.（2005）Bad Girl Photography. Miller,L and Bardsley,J. eds. Bad Girls of Japan. Palgrave Macmillan: 147-142

宮台真司・石原英樹・大塚明子（2007）増補サブカルチャー神話解体：少女・音楽・マンガ・性の変容と現在．筑摩書房

満屋裕明（2009）やっぱりサイエンティストはカッコいい！．学術の動向 14(2): 84-85 頁

難波知子（2012）学校制服の文化史：日本近代における女子生徒服装の変遷．創元社

仲川秀樹（2010）“おしゃれ”と“カワイイ”の社会学：酒田の街と都市の若者文化．学文社

西川正之（1999）制服と対人行動．神山進編，被服行動の社会心理学：装う人間のこころと行動．北大路書房：90-99 頁

入戸野宏（2019）「かわいい」のちから：実験で探るその心理．化学同人

小笠原祐子（1998）OL たちのレジスタンス：サラリーマンと OL のパワーゲーム．中央公論社

尾川佳子（2020）制服の印象が企業イメージに与える効果に関する一考察：航空会社の客室乗務員の事例より．桜美林論考・ビジネスマネジメントレビュー (11): 24-44 頁

大野愛哉・田中真理（2021）“かわいい”に関する研究動向：対象の属性・感情・認知からみた自閉スペクトラム症者支援への適用可能性に着目して．九州大学心理学研究 (22): 1-9 頁

櫻井孝昌（2009）世界カワイイ革命：なぜ彼女たちは「日本人になりたい」と叫ぶのか．PHP 研究所

杉村使乃（2021）制服ガールの総力戦：イギリスの「女の子」の戦時貢献．春風社

「旅と鉄道」編集部（2020）鉄道制服図鑑：制服鉄の世界．天夢人

内田静枝（2019）ニッポン制服百年史：女学生服がポップカルチャーになった！．河出書房新社

山岸健（2004）社会学の文脈と位相：人間･生活･都市･芸術・服装・身体（改訂版）．慶応義塾大学出版会

山口誠（2020）客室乗務員の誕生：「おもてなし」化する日本社会．岩波書店

山根一眞（1986）変体少女文字の研究．講談社

矢野直美（2010）ダイヤに輝く鉄おとめ．JTB パブリッシング

四方田犬彦（2006）「かわいい」論．筑摩書房

吉光正絵・西原麻里（2017）〈カワイイ〉の銀河系．吉光正絵・池田太臣・西原麻里編著，ポスト〈カワイイ〉の文化社会学：女子たちの「新たな楽しみ」を探る．ミネルヴァ書房：1-49 頁

（2021年　5月24日受付
2021年　7月 9日受理）